

左前頭葉に傷で文法障害

脳の左前頭葉の一部が傷つくと、言葉の文法がうまく使えなくなることを、東京大や昭和大などのチームが明らかにした。この部位は文法処理にかかわることは知られていたが、損傷で文法障害を引き起こすことが確認されたのは初めてという。

この「文法中枢」は言葉をつないで文章として理解しようとするときに働く。酒井邦嘉・東京大准教授らは、ここに腫瘍（しゅよう）がある患者11人に文法テストをしたところ、特定の文型で50%間違えた。腫瘍が文法中枢を外れていた患者10人は健康な人と同等の約3%しか間違わなかった。

（ブレーン・アンド・ランゲージ電子版）